

# 『甘いバナナの苦い現実』

石井正子編著、コモンズ、2020年

**鶴** 見良行さんによる名著『バナナと日本人』が刊行されたのが1982年、出版につながる市民による調査研究から数えると40年が経ちました。

いまやバナナは、日本人がいちばん多く食べている果物であり、そのバナナの8割近くがフィリピンから届いています。スーパーに行けば必ずと言っていいほど店頭付近に並んでいるバナナ。年中変わらない値段で買うことができるバナナ。日本人にとって身近でありながら(もしかしたら身近になりすぎて)どうやって手元に届くのかを知らない消費者が多いのではないのでしょうか？

本書では、輸出向けバナナの歴史から現在の多国籍アグリビジネスの姿まで、また、フィリピン・ミンダナオ島の生産現場の現実から流通の仕組みまでを詳細に描き出しています。そして「甘いバナナの苦い現実」を知った私たちが「どうバナナを食べればよいのか」という消費のあり方を問いかけます。簡単に答えの出る問いではないからこそ、皆さんと一緒に考え続けていきたいと思えます。

野川未央(のがわ・みお/APLA)



ご購入は全国の書店もしくはAPLA SHOPから  
[https://www.aplshop.jp/SHOP/banana\\_b.html](https://www.aplshop.jp/SHOP/banana_b.html)



特定非営利活動法人APLA(Alternative People's Linkage in Asia)  
 フィリピン・ネグロス島の30年以上の経験を活かし「農を軸にした地域づくり」のためのネットワークの構築を目指して、出会いや交流の場の創造を進めています。 [www.apla.jp](http://www.apla.jp)

株式会社オルター・トレード・ジャパン(ATJ)  
 バランゴンバナナやエコシュリンプなどの食べ物の交易で、生産者と消費者を顔と顔が見える関係でつなぎ、人と人、自然が共生できる社会づくりを目指しています。 <http://altertrade.jp>

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15サンライズ新宿3F  
 TEL03-5273-8160 FAX03-5273-8667 MAILinfo@apla.jp

過去のPtoP NEWSはこちらから  
[特定非営利活動法人APLA](#)

# 人から人へ PtoP NEWS vol. 41 2020.12



特集

パプアのカカオ生産者の声をご紹介します



カカオ生産者のマンゴさん



生産者と話をするハリーさん(右)

## 230人のスタッフを束ねるリーダー

ハリー・ユリ・スサントさん

(ATINAゼネラルマネージャー) from インドネシア

インドネシア第二の都市、スラバヤから(朝の渋滞ラッシュにはまらなければ)車で30分ほど走ったシダルジョという町に、エコシュリンプを製造するオルター・トレード・インドネシア社(以下、ATINA)があります。そこで現地の代表としてATINAで働くスタッフを束ねているのがハリーさんです。

私が彼と最初に会ったのは、今から遡ること10数年前。まだ、ATINAを立ち上げたばかりで、自前の工場もなく住宅街にある一軒家を事務所としていた時代。彼は、当時はデータ入力担当者で、スタッフが休憩をとっている時間も返上で、養殖池を巡って監査するスタッフたちが持ち帰ってきたデータや、工場から刻々と上がってくる製造工程のデータを烈火のごとく、ひたすらパソコンに向かって打ち込んでいました。養殖池やエビ工場の匂いを微塵も感じさせない、都会のオフィスで働いている若者のようで、他のスタッフにはない雰囲気を感じ出していたのをよく覚えています。

そして10数年ぶりに、私がエコシュリンプを再び担当することになり、ATINAのリーダーとなって大きく成長した(!)ハリーさんと直接やり取りをするようになりました。彼の

良い意味での変貌ぶりは目を見張るものがありました。

周囲に気を配りながら現場で起こった課題や問題についての情報を迅速に吸い上げて解決策を探す。難しい問題があれば日本にいる私たちにもすぐに相談し、一刻も早い解決に取り組む。働くスタッフに個人的なトラブルがあれば、その本人とじっくり話して解決策を一緒に考える。多くの工員が働く工場のコロナ感染防止対策もいち早く導入して、皆を集めて自ら、なぜこの対策が必要なのか説明して徹底させる……など、私が見てきた彼の姿はまさに「リーダー」そのものです。とはいえ、厳しい判断をしなくてはならない時、本当に悩んでいる姿を見てきたのもまた事実です。

ハリーさんの夢は、ATINAの株をすべてATINAのスタッフで持つこと。今はオルター・トレード・ジャパン(ATJ)の子会社という位置づけですが、やがては本当の意味での自分たちの会社にして、生産者が世代を超えて綿々とつくってきた粗放養殖エビを、日本だけに限らない市場に紹介していけるようになることを望みながら、今日も忙しい毎日を送っています。

山下万里子(やました・まりこ/ATJ)



民衆交易でつながる現地の方々を紹介します!



エコシュリンプの詳細は  
 オルター・トレード・ジャパンのサイトへ  
<https://altertrade.jp/ecoshrimp>





特集



# パプアのカカオ生産者の声をご紹介

from インドネシア

カカオの苗床を案内してくれるサルモンさん

人と自然にやさしい経済活動によってパプアの村落部コミュニティの自立をめざそう!と、カカオキタ社(以下、カカオキタ)がインドネシア・パプア州でカカオの民衆取引に取り組み始めてから約8年の時が経過しようとしています。人との関係性や連帯を基盤にした事業なので、カカオ豆の買付時生産者とのコミュニケーションを大切にしています。

## カカオキタと出会ってからの変化

生産者とカカオキタのある日の話し合いの一部をご紹介します。  
「カカオキタにカカオ豆を売り始めてからどんなことを感じていますか?」  
と聞いてみたところ、「カカオキタと出会ってから、大きな変化を実感しています。カカオ豆から得た現金を銀行に貯金するようになりました。また、私たちが育てたカカオから作るチョコレートも食べられるようになりました」と、生産者の答えは異口同音に好意的なものでした。

カカオキタでは、2015年から生産者がカカオを売って得た現金収入の一部を町の銀行に預け入れる貯蓄プログラムを実施してきました。また、最近では生産者から買付けたカカオ豆でチョコレート菓子を自家製造し、カフェでの販売を始めています。

女性の生産者ラヘル・イウォンさんは貯蓄プログラムで孫の教育費を積み立てています。また、いざという時のためのお金を安全な場所(=銀行)に置いておけることがありがたいと言います。銀行への預け入れは、親戚

## お互いが支え合う関係性

また、多くの生産者が口にしたのは、「カカオキタを通じて確かな売り先があることがありがたい」ということでした。パプアのチョコレートを日本で食べている消費者が遠く日本から訪れてくれることも大きな励みとなっているようです。カカオ豆を丁寧に発酵させることで定評のあるヨルダン・カッセさんは「日本の皆さんに私たちのカカオが良いと認められることが私や村の誇りになっています」と語りました。

生産者の一人ジョン・タルコさんは1980年代に1haのカカオ畑を開きましたが、都市部から来る買付人にカカオを売ることでは将来の展望が見えず、カカオ畑を放置してしまっていたそうです。ジョンさんは、カカオキタが生産者の問題に関心を寄せていることを知り、再びカカオの栽培を始めたと言います。

生産者グループの中心にいるヤフェット・ヨシュアさんは、「以前は森だったところも今はカカオ畑らしくなってきました。買い手がわかることで、カカオの価値を再び見直すことができました。荒れた森や古いカカオの木を手入れして、再び実がなるようにしました。その結果、収穫量が増えています。生産者のやる気はカカオキタがいるからこそ、そしてカカオキタのやる気も私たち生産者がいるからだと思います。つまり、私たちはカカオでつながってお互いに支え合っています」と、関係性を強調しました。

身体に不自由がありながらもカカオ栽培を人一倍がんばっているマルティン・タルコさんは、良いカカオを作る秘訣はカカオの木に「話しかける

カカオキタ社

パプア州のカカオ生産者が収穫したカカオ豆を集荷・加工し、日本に販売する事業体。

からお金を無心された時にノーと言えない伝統的社会的ジレンマに対してひとつの解決策になっているようです。

カカオキタの存在が生産者のカカオに対する理解に変化をもたらしたと話すのはエサウ・タルコさんです。「以前は、多くの生産者がカカオ畑の手入れを怠り、自分で豆の発酵をする人も少なかったです。けれどもカカオキタによる買付が始まってからは多くの生産者がアドバイスに沿って発酵作業をしっかりとるようになりました」



孫のために貯蓄するラヘルさん(左から2人め)



カカオの収穫量が増えたと喜ぶ生産者のジョンさん(左)とヤフェットさん(右)



カカオの木に話しかける、と話すマルティンさん(左端)

ことだ」と嬉しそうに教えてくれました。

現在コロナ禍で困難なこともあります。カカオキタはパプアの実産者と日本の消費者との関係性をより深く、民衆取引で小さなコミュニティが自立発展できるようにしたいと気持ちを新たにしています。

津留歴子(つる・あきこ/カカオキタ社)



カカオキタとは、インドネシア語で「私たちのカカオ」という意味。

カカオキタのカカオの詳細は、オルター・トレード・ジャパンのサイトへ <http://altertrade.jp/cacao>

オルター・トレード・ジャパン (ATJ) 🔍

